

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	YMCAおひさま		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 2日		～ 2025年 12月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	61名 (55世帯)	(回答者数) 42名
○従業者評価実施期間	2025年 12月 15日		～ 2025年 12月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数) 12名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 16日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員体制	細やかな支援を行うために職員は役割分担をしている。記録担当者がクラス活動中の子どもの言動を観察、記録してクラス後に振り返り、支援に繋げている。そのために、配置基準にプラスして職員を配置している。	より良い支援をおこなえるように、研修等により職員のスキルアップを図る。研修等で得た知識や感想をシェアし、職員全員の知識や資質の向上に努める。
2	保護者支援	親子クラスでは保護者が一緒に活動に参加し、幼児クラスや小学生クラスでは記録担当職員が撮影した活動中の写真や動画を見ていただくことで、子どもの発達の状況や困りごと、安心できる方法、得意や強みを一緒に考え理解が深められるように支援している。 クラスの前後や定期的な発達相談を通して、家庭内や通園、通学先での様子を聞き取り、事業所内だけでなく生活全般を通じた支援を考えている。 ペアレントトレーニングやおひさま講座などを開催し、保護者同士の交流の機会を定期的に設けている。	子育ての真っ只中にある保護者の悩みや先を見通せない不安に寄り添いながら、お子さんへの関わり方を一緒に見つけていく。 本人や家族の意思を尊重し、意思決定支援を行っていく。 年に数回おこなう公認心理士によるスーパーバイズの中で、日々の支援方針について考察する機会を持ち、偏りのない支援の視点を養うように努める。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	情報の発信	活動概要や行事予定については掲示物や手紙で発信しているが、ホームページやSNSでの発信回数が少ない。	現在の発信方法以外にも、メールによる情報発信も検討していく。
2	保護者への活動報告の方法	小学生クラスについては事務所前で保護者への活動報告をしていたが、こども園の保護者の出入りもあり、落ち着いて話を聞かにくい環境だった。また、プライバシーが気になる方がいたのではないかと。	「保護者等からの事業所評価」を実施した中でいただいたご意見を踏まえ、小学生のクラスの活動報告を、併設するこども園の1室を借りて行うように変更しました。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	YMCAおひさま
------	----------

公表日 2026年 3月 16日

利用児童数 61名 (55世帯)

回収数 42名

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	97.6%	2.4%	0.0%	0.0%	ブレイルームは基準を満たしています。児童の年齢やプログラムに合わせて、活動の場所について工夫をしています。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	有資格者を基準より加配で配置をしています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境(※1)になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	90.5%	2.4%	0.0%	7.1%	設定の活動では道具が見えないように目隠ししたり、今日の予定や荷物等の置き場はイラスト等で示す等の視覚的配慮をしています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	97.6%	2.4%	0.0%	0.0%	毎日、職員が掃除や玩具の故障チェックなどを行い、安全に過ごすことができるようになっています。必要のない物、子どもたちが気になる物は目隠しや目の届かないところに収納するように心がけます。
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	85.7%	9.5%	2.4%	7.1%	より良い支援がおこなえるように、外部研修や法人内研修等を積極的に受講し、職員のスキルアップを図るよう努めます。
	6	事業所が公表している支援プログラム(※2)は、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	92.9%	2.4%	0.0%	4.8%	支援プログラムに基づき、毎月プログラムを立案、計画、実施、評価をしています。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画(個別支援計画)(※3)が作成されていると思いますか。	90.5%	7.1%	0.0%	2.4%	お子様のアセスメントを基に、保護者の意向を踏まえて個別支援計画を作成しています。年に2回以上、現状を確認し、必要に応じて個別支援計画の変更を行っています。
	8	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画には、児童発達支援・放課後等デイサービスガイドラインの「児童発達支援・放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	85.7%	0.0%	0.0%	14.3%	記載内容については、ケース検討会の内容を含め、職員で話し合いながらよりよい計画書になるよう努めています。
	9	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	92.9%	2.4%	0.0%	4.8%	一人ひとりの個別支援計画の内容がクラスのプログラム作りや支援に反映されるよう心がけています。
	10	事業所の活動プログラム(※4)が固定化されないよう工夫されていると思いますか。	90.5%	7.1%	0.0%	2.4%	保護者と情報交換し、子どもたちが楽しみながら意欲を持って取り組めるプログラムを行えるよう努力します。
	11	児童発達支援は保育所や認定こども園・幼稚園等との交流、放課後等デイサービスは放課後児童クラブや児童館との交流、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	57.1%	14.3%	9.5%	19.0%	保護者のご要望に応じて、神戸YMCAで行っている幼児クラス、野外活動、プール、体操、学童、児童館などを紹介し、交流の場を紹介していきます。
保 護 者	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	95.2%	2.4%	0.0%	2.4%	毎回、支援の内容についてはお伝えし、利用者負担等については入会時や掲示にて説明しています。ご不明な点があれば、その都度説明します。
	13	「児童発達支援計画」又は「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	個別支援計画を作成又は変更した際には、個別支援計画を示しながら具体的な支援についての説明をします。ご意見やご不明な点についてはその都度確認、説明するようにします。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング(※5)等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	今年度もペアレントトレーニングを実施しました。また、学期毎(年3回)に臨床心理士による保護者のためのストレス軽減法(マインドfulness)の「おひさま講座」を行っています。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	95.2%	4.8%	0.0%	0.0%	クラス前後の送迎の際に幼稚園や家庭の様子、体調、クラスでの様子を確認しています。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	95.2%	4.8%	0.0%	0.0%	年に2~4回の個別面談以外に必要な方はその都度子育て、発達相談を受け付けています。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	97.6%	2.4%	0.0%	0.0%	

百 へ の 説 明 等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	76.2%	14.3%	0.0%	11.9%	兄弟への支援についてはわかりません。	父母の会の活動やきょうだい同士の交流は特に行っていませんが、ご要望があれば検討していきます。 年3回開催しているおひさま講座やペアレント・トレーニングなどでの意見交換の時間を通じて保護者交流の機会がとれるように心がけています。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	88.1%	7.1%	0.0%	4.8%		児童発達管理責任者が発達相談や普段から要望、苦情受付を担当しています。電話、メールの受付以外に玄関にご意見箱を設置し、ご相談や申入れがあれば、迅速に対応するように心がけています。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	95.2%	4.8%	0.0%	2.4%	その日の活動報告について。幼児クラスの時は、室内で説明がありましたが、小学生になってから事務所前での説明になり、保育園の保護者の出入りもあつたりするので少し気になります。(子ども達とは分離して活動報告を受けるためだと思いますが。)	ご意見を踏まえ、小学生のクラスの活動報告を、併設するこども園の1室を借りて行うように変更しました。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	73.8%	9.5%	2.4%	14.3%		毎月、掲示物や手紙・ホームページで活動内容をお伝えしています。今後はメールによる情報発信も検討していきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	97.6%	0.0%	0.0%	2.4%		個人ファイルは鍵のかかっている棚に保管し、名前が記入されている書類はその都度シュレッダーにかけています。
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	92.9%	0.0%	0.0%	7.1%		緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルともに策定し、職員間で周知しています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	97.6%	0.0%	0.0%	2.4%		職員だけの火災、地震、防犯の避難訓練と共にクラス内で子ども達とも一緒にを行っています。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	100.0%	2.4%	0.0%	0.0%		
	26	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	73.8%	2.4%	0.0%	23.8%	事故や怪我等はしていませんが、警報の時はすぐに連絡をしていただきありがたかったです。	事故や怪我等が発生した際には、迅速に関係各所に連絡し、事故発生時の状況を説明します。
満 足 度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	95.2%	4.8%	0.0%	0.0%		お子様が安心して過ごせるように、活動の流れを視覚的に示したり、必要に応じて休憩できるスペースを設けています。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	78.6%	19.0%	0.0%	2.4%		保護者と情報交換し、子どもたちの園や学校での様子を聞きながら、状況に合わせて臨機応変にプログラムを組むようにしています。
	29	事業所の支援に満足していますか。	88.1%	9.5%	0.0%	2.4%	温かい雰囲気の中、1人ひとりの子どもたちを大切に見ていただき、プログラムもいろいろと工夫されていて、安心して通っています。	退会后にフォローアップでアンケート調査や発達相談を行い、おひさまのこれからの活動に活かしています。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	YMCAおひさま		公表日			2026年 3月 16日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		プレイルームは基準を満たしています。児童の年齢やプログラムに合わせて外出する等、活動の場所を工夫しています。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		有資格者を基準より加配で配置をしています。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		設定の活動では遊具が見えないように目隠ししたり、今日の予定や荷物等の置き場はイラスト等で示す等の視覚的配慮をしています。	発達支援室は2階にありますが、エレベーターは設置されていません。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		幅広い年齢の児童が利用しており、それぞれの身長に応じた机や椅子を用意することが難しいため、小学校高学年は座卓を使用しています。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		発達支援室内に休憩スペースを設置しています。活動に参加しにくい時には、休憩スペースに入り気持が落ち着くまで休憩することを保証しています。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		この事業所評価を通して保護者のご意見やご意向を把握し、業務の改善に努めています。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員会議や日々の打ち合わせ、振り返り等で職員同士の意見交換をしています。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		外部研修や法人内研修の受講の機会を提供しています。各職員が研修で得た知識や感想を職員会議でシェアし、職員全体の知識や資質の向上に努めています。		
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		5領域との関連性を明確にした支援プログラムを作成し、ホームページ上で公開しています。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		面談内で保護者の意向とこれまでの生育歴、発達検査報告書、現在の様子をお聞きした上でクラス内の様子から考えられる子どものつまずき、良い面を観察し、作成しています。		
	13	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		年2回、各児童のケース検討会議を実施し、児童に関わる職員が集まって児童発達支援計画の内容について検討しています。		
	14	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		ケース検討会議では児童発達支援計画の内容を踏まえ、現在の状況や課題、クラスでの取り組みを検討し、日々の支援に繋げています。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		保護者から提供いただいた発達検査報告書と、日々の行動観察を基に児童の適応行動の状況を把握し、児童発達支援計画の作成、日々の支援に活用しています。		
	16	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画には、児童発達支援ガイドライン（放課後等デイサービスガイドライン）の「児童発達支援（放課後等デイサービス）の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		「本人支援」は5領域の視点を踏まえたアセスメントを基に支援目標を設定しています。具体的な支援内容はケース検討会議の内容を踏まえて設定しています。また、「家族支援」には発達相談や保護者会、「地域支援」には関係機関連携を具体的な支援内容として設定しています。		

の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		毎月プログラム会議を全クラス設け、チーム全体で立案しています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		年齢、メンバーによってプログラム内容を変えています。季節的な取り組みや子ども達が興味があるものをプログラムに取り入れています。	保護者と情報を交換し、子どもたちが楽しみながら意欲を持って取り組めるプログラムを行えるよう努力します。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		5名前後の小集団で活動を行っています。その中で個別の課題を設定し、個別的な関わりを行っています。また、年中・年長児童には必要に応じて個別指導の時間を設けています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		クラス前にミーティングを行い、活動内容や役割分担、各児童の支援方針を確認しています。また、児童発達支援管理責任者が面談内で保護者からお聞きした内容を職員間で共有しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		クラス前にミーティングを行い確認しています。児童発達支援管理責任者が面談内で保護者からお聞きした内容を職員間で共有しています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		その日行った支援や児童の様子、今後の取り組みについて共有し、記録しています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		全ての児童に対して半年ごとに職員間でケース会議を実施し、児童発達支援計画の確認を行っています。また、2～6か月ごとに保護者と面談を行い児童発達支援計画の見直しを行っています。	
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者やクラス担当職員が相談支援事業所等のサービス担当者会議や関係機関の会議に出席しています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		就学前や他事業所と連携し、支援体制を整えています。	医療機関との連携は行えていませんが、今後必要に応じて連携を検討していきます。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		保護者の希望に応じて関係機関連携を実施しています。	
関係機関や保護者との連携	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		就学等の移行時には、支援内容等を書面にまとめたものを保護者経由で就学前にお渡ししています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		児童発達支援センターが主催する事業所交流会や研修会に参加しています。また、年5回程度臨床心理士の協力を得て、スーパーバイズを実施し、助言を受けています。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園、放課後児童クラブや児童館等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		事業所が認定こども園の建物内にあり、玄関やトイレ等を共用しています。児童発達支援事業は交流プログラムを行っていませんが、放課後等デイサービスでは毎年、地域の学童と一緒に活動するプログラムを設けています。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		クラスの送迎の際に幼稚園や家庭の様子、体調を確認しています。クラスでの様子をお伝えする際には、発達の状況や強み、課題についてお伝えしています。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		毎年、ペアレントトレーニングを実施しています。また、学期毎(年3回)に臨床心理士による保護者のためのストレス軽減法(マインドフルネス)の「おひさま講座」を行っています。	

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		運営規程や支援プログラム、利用者負担等については入会時に書面を示しながら説明しています。質問があればその都度、説明しています。	
	36	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		本人や保護者の意向を確認し、アセスメントを踏まえて支援方針を設定、個別支援計画を作成しています。	
	37	「児童発達支援計画」又は「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		保護者面談の際に、児童発達支援計画を示しながら説明し、同意を得ています。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		児童発達支援は年に3〜4回、放課後等デイサービスは年2回の個別面談を設けています。左記以外に必要な方はその都度子育て、発達相談を受け付けています。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		年3回開催しているおひさま講座やペアレント・トレーニングなどでの意見交換の時間を通して保護者交流の機会がとれるように心がけています。	父母の会の活動やきょうだい同士の交流は特に行っていませんが、ご要望があれば検討していきます。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		児童発達支援管理責任者が発達相談や普段から要望、苦情受付を担当しています。電話、メールの受付以外に玄関にご意見箱を設置しています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		活動概要や行事予定は、毎月掲示物を作成し、クラス中に児童や保護者にお伝えしています。また、連絡事項については掲示物や手紙でお伝えしています。ホームページ内のブログで活動の様子やお知らせを発信しています。	メールによる情報発信も検討していきます。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人ファイルは鍵のかかっている棚に保管し、名前が記入されている書類はその都度シュレッダーにかけています。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		言葉が出なかったり、コミュニケーションの苦手さがある子には分かりやすいように視覚支援を使って情報伝達を行っています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		事業所単独の行事に地域住民をご招待していませんが、運営法人の神戸YMCAで行うチャリティバザー(わいわいまつり)は地域住民に案内し参加していただいています。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアルを策定し、職員間では周知、研修や訓練をしています。保護者には入会資料に記載し説明しています。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画（BCP）を策定し、研修や訓練を実施しています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		入会時の資料に記載いただいています。入会後の変更については保護者から聞き取り、記録を残しています。クラス中の児童の様子に気になる点があれば、必ず保護者にお伝えしています。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		アレルギー物質、食品について入所時に保護者の方に記入していただいています。特別なプログラム以外での飲食は禁止としています。プログラム中の食品使用の際には毎回保護者に確認をしています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、計画を基に研修や訓練を実施しています。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		月に一度職員会議内でヒヤリハット事例を職員全員で共有し、今後の対応を記録しています。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		年に1回、職員研修をしています。また、職員が障害者の権利擁護と虐待防止に関する研修を受けました。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		プレイルームは2階にあるため、安全の為に扉に鍵をかけています。プレイルームの施設については入会時に説明するように心がけます。	